

# 14 詩2 簡単な技法

組
番号
氏名

1 次の詩を読んで問いに答えなさい。

<p>落葉松 <small>からまつ</small></p> <p>一</p> <p>からまつの林を過ぎて、 からまつをしみじみと見き。 からまつはさびしかりけり。 たびゆくはさびしかりけり。</p> <p>二</p> <p>からまつの林を出でて、 からまつの林に入りぬ。 からまつの林に入りて、 また細く道はつづけり。 (以下、省略)</p>	<p>北原白秋</p> <p>道程 <small>どうてい</small></p> <p>高村光太郎</p> <p>僕の前に道はない 僕の後ろに道は出来る ああ、自然よ 父よ 僕を一人立ちにさせた広大な父よ 僕から目を離さないで守る事をせよ 常に父の気魄<small>きはく</small>を僕に充<small>み</small>たせよ この遠い道程のため この遠い道程のため</p>
--	--

(1) ①と②の部分に用いられている表現の技法を、次の中から選んで、それぞれ答えなさい。

- 比喩ゆ    擬人法    対句    倒置法    反復    体言止め

① …

② …

2 次の — 部の表現に用いられている表現の技法を答えなさい。

A 少女の瞳の色は、澄んだ海のようなブルーだった。

B 私は信じている。必ずそれは実現すると。